

【会議結果】

会議名	令和4年度 第4回碧南市地域公共交通活性化協議会
日時	令和5年3月7日(火) 午前10時～11時30分
場所	碧南市役所 7階議員大会議室
出席者	碧南市地域公共交通活性化協議会委員14名(内代理出席 1名) 事務局4名、コンサルタント2名 (欠席:碧南警察署 大脇委員、愛知県都市・交通局交通対策課 大林委員、 愛知県知立建設事務所 林委員、愛知県バス協会 小林委員)
傍聴者	4名

議事

1 あいさつ

2 議題

(1) 第1章～第5章までの修正点について

○事務局

- ・資料1により説明

質疑応答

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

免許返納や体調不良の人は、タクシーや送迎が多いことはわかった。タクシーに対する補助は高齢者と障害者しかない。また、月の枚数も決まっているが、将来的に規制がないような受給とはならないか。

○事務局

昨年10月より、16ページに記載しているが外出に支援が必要な高齢者にタクシー券を給付する事業を行っているが、そこから拡充することは、さまざまな方法があると思うので、協議会の中で議論していきたい。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

受給対象外の方にも広げていくことはどうか。

○金沢会長(碧南副市長)

公共交通計画を立てる際にはそうした議論はあると思う。

健康状態などの判断基準もアンケートで見えてきたため、計画策定後に考えていきたい。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

先生が以前に発言された、自転車の有効利用はどのようなものか。

○岩崎委員(四日市大学学長)

例えば公共施設や駅に乗り捨て可能な自転車が置いてあり、それには広告がついているとともに、1時間又は1日いくらで使うことができる。そうしたやり方が広まっているところもある。

○潮田委員(愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長)

16 ページに記載している高齢者の外出支援について、この会議とは別に、碧南市福祉有償運送協議会もある。2つのNPO法人でどちらも一桁の会員しかない。他の自治体では100人等の登録がある事が多い。

福祉有償運送について、どうして会員数が少ないのか分からないが、アピールや広報するなど、こちらも拡大するようなことも検討してはどうか。

○事務局

福祉有償運送については、福祉課で事務局をしており、庁内で部会を開催する中で共有していきたい。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

介護タクシーが掲載されていない。これを利用するには非常に値段が高い。これは何とかならないか。

○事務局

こちらについても担当課に確認を取っていきたい。

○潮田委員(愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長)

介護タクシーがどのようなものか分からないが、基本的には運輸支局へ届け出をしているため、運賃としては決まっている金額となる。

福祉有償運送について、ストレッチャー等が乗れる車を用意するのは認可が必要で、通常のタクシーの半分くらいの運賃で設定すると法律上で決まっているので、会員登録が必要になるが、ご利用いただきやすいものと考えている。

○堺委員(中部運輸局愛知運輸支局主席運輸企画専門官)

認知度について課題であるという説明があった通り、アンケート結果のあなたの自宅近くを走るバスで行くことが出来る施設(ルート)の認知度が低い事が課題だと思うが、認知度を高める取り組みは何か考えているか。

○事務局

利便性を高めて、利用されるような方策を取っていきたい。

まず、1度使っていただくことが大事だと思う。これは、くるくるバスに乗っていくイベントを考えることや、商業施設とのタイアップも考えていきたい。

○潮田委員(愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長)

知立市では、知立駅発着のコミュニティバスで、弘法さんの日に合わせて期限ありの無料チケットを配布する取り組みを行っているので、参考にしてほしい。

○長田委員(碧南商工会議所副会頭)

名古屋車でバスがもうすぐ来るということを知らせるアプリを作った知人がいる。

また、Googleでは経路案内ができるため、そうしたものをうまく使うという手段はあると思う。

○中村委員(碧南市建設部長)

この交通計画にデジタル化について入れる必要があるか。

○事務局

ICTを含めたものについて、計画の中で検討していくものだと思う。

どうやったら乗ってもらえるかということを考える中で、ICTなどを活用する検討をしたい。現状、高齢者の利用が多いが、スマホを使える方も増えるため、そうした取組みもしていきたい。

また、Googleマップの方ではくるくるバスの経路検索ができるが、知られていない現状がある。

○鳥居委員(市民公募)

くるくるバスを利用している者として、スマホでバスが来る時間が分かるのはいいが、スマホを使いきれないという現状もある。

ふれんどバスやくるくるバスでイベントをすることについては賛成したい。

くるくるバスについて、時間がかかりすぎる。駅を拠点にした路線にした方が、移動時間が減少することもあるのではないかと思う。

○伊藤委員(碧南市老人クラブ連合会 信和会会長)

朝晩の介護施設への送迎車が沢山走っているため、これらを何かに利用することは難しいものか。

○潮田委員(愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長)

先ほど説明した福祉有償運送という仕組みで、会員登録をして、空いている車・運転手さんで白ナンバーで運行できる仕組みとなる。これが碧南市では利用されている方が少ないため、活用の方法を考えてはどうか。

○堺委員(中部運輸局愛知運輸支局主席運輸企画専門官)

福祉有償運送は会員制となり、健康な方は利用できないものだという理解をお願いしたい。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

それはなぜか。

○堺委員(中部運輸局愛知運輸支局主席運輸企画専門官)

福祉有償運送は2種類あり、交通空白地域という条件、もしくは要介護認定等の健康条件がつくもののどちらかで、登録していただくことになる。

○潮田委員(愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長)

基本的に公共交通としてのタクシーは、法的に安全運行に対する制限が多く、コストが高くなるが、福祉有償運送は白ナンバーで運行できるなどの理由で安い料金で運行できるため、こうした制限を設けていただいている背景がある。タクシー事業者は緑ナンバーで、毎年車検をし、3ヶ月に1度点検をして、運行管理者を置くなど安全を担保している。

白ナンバーで全部運行すればいいとなると、地域からタクシー事業者がなくなるなどの事態になりかねないため、この点についてはご了承いただきたい。

○岩崎委員(四日市大学学長)

35 ページの「免許返納後に利用したい(利用している)移動手段」の図は他でもやるべきだと思うほどに、健康状態別にきれいに回答が分かれるものだった。

健康状態が悪い人が増えていく高齢化のなかで、家族・知人の送迎に頼りきりにならないように、今後の福祉有償運送を考えていくということは一つの手だと思う。

地域の交通手段を総動員するという意味で言うと、企業の送迎バスや福祉事業者の車両を活用することは検討していかなければならないと考えている。

スマホを利用したら色々なことができるようになるが、年を取るとそれが難しくなる。高齢の方がスマホをうまく使えないことが、デマンド交通がうまくいかないことの原因になっている場合もある。

○金沢会長(碧南副市長)

議題(1)について、承認いただける方は挙手を願う。

(全員挙手)

○金沢会長(碧南副市長)

議題(1)は承認された。

(2) 第 6 章 1) 地域公共交通の基本的な方針について

○事務局

・資料 1 により説明

○金沢会長(碧南副市長)

58 ページの方針 1～3 が今後の細かなカテゴリーになっていくのか。

○事務局

その通りである。

○金沢会長(碧南副市長)

方針に関して必要な視点などについての意見を頂きたい。さらに上段の「みんなが使う公共交通で支える活気あるまち へきなん」というタイトルも含めて意見を頂きたい。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

西尾と碧南は近く、ふれんどバスが走っている。これを使って交流の場は設けられないか。

1 年ごとに西尾と碧南の持ち合いで、地域の交流ができればいい。

○岩崎委員(四日市大学学長)

当然、碧南だけで移動が完結するわけではない。通勤・通学流動は西尾との結びつきが大きい。経験からすると、市境にお住まいの方が、双方のコミュニティバスの境に入ってしまう、困っているという事例はある。広域で考えていくのは必要である。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

西尾から碧南市民病院へ来る方もみえると聞いている。

○事務局

参考までに、西尾市のコミュニティバスが碧南の鷺塚住宅へ乗り入れており、くるくるバスへ乗り継げば碧南市民病院へ行ける。また、同じく市民病院に行くためには、安城市のコミュニティバスは市民病院に乗り入れているし、くるくるバスと安城市のあんくるバスは榎前で接続している。さらに、高浜市のコミュニティバスとは、碧南市のサンビレッジ衣浦で接続している。今後もコミュニティバス同士の接続も今後さらに検討課題としている。

○金沢会長(碧南副市長)

方針1で病院へ行く人を捉えることは可能か。

○事務局

近隣市の方が市民病院へ通われる方がいることは把握している。くるくるバスを利用して来る方について、うまくカウントできるかは分からないので検討していきたい。

○金沢会長(碧南市副市長)

市内の人が市民病院に行くときの交通手段が、タクシーか送迎なのか等のアンケートが取るのが難しいとすれば、その辺りの考え方を教えてほしい。

○事務局

くるくるバスは市民の方がよく利用されるというのが、買物と通院というアンケート結果が出ている。

乗降調査において利用者数がどの程度増えたかという視点でもいい。

商業施設や医療機関の近くにバス停を移設し、利用状況を確認していくなどではどうかと考えている。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

5月に高齢介護課が担当しているシルバーカードのチェックがある。病院へどうやって行くかというチェックを付けてもらうようにしたら良いのではないか。

○潮田委員(愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長)

市内公共交通全体の利用者数は鉄道に依ることが大きいので、くるくるバスやタクシーなどの人数を個別に出した上での評価とした方が良い。

また、方針1、2、3の指標例について、アンケート結果に基づいた指標がないように思うので、公共交通を利用していただいて、今は利用していない方で認知度が上がれば、将来使って頂ける可能性が出てくると思うのですが、実際の利用者数からは取れないので、アンケート結果などをいくつか指標に入れるとよいと考えている。

○鳥居委員(市民公募)

8ページに名鉄三河線の複線化等の整備を推進しますと書かれている。これは実現していくのか。豊田の駅の前は随分整備されていて、こちらの方は複線になるのが望めるが、碧南方面はどうか。

○事務局

行政と名鉄沿線の商工会で名鉄三河線複線化期成同盟会を組んでおり、毎年名鉄への要望活動をしている。人口増加の時代では、名鉄は複線化に係わる用地取得の動きがあったが、現在

は中断しているという理解でいる。今後はどうなるか不明だが、我々としては努力をしている。
なので資料には複線化と記載しているが、かなりハードルは高いと思っている。

○花村委員（名古屋鉄道株式会社）

事務局の説明の通りである。

複線化のためには利用が見込めることが必要で、投資に対する効果が必要となる。

コロナもあり利用が減少した状況でもあり、複線化に向けた材料が足りない状況にある。

○小田委員（碧南市民生委員児童委員協議会代表）

油ヶ淵の水辺公園はどのように整備していくのか。いつ完成するのか。

○中村委員（碧南市建設部長）

こちらは県営公園として愛知県が整備している。現状は3分の1も完成していない状態で、かなり先の完成となる。

○小田委員（碧南市民生委員児童委員協議会代表）

その公園も将来的には碧南市の目玉ということになるかもしれない。

○長田委員（碧南商工会議所副会頭）

集約課題のところで、西尾市や安城市は碧南市に公共バスを乗り入れているが、碧南のくるくるバスは安城や高浜の駅等になぜ乗り入れていかないのか。安城更生病院は行ってもよいと思うが、何か理由があるのか。

○事務局

どこまで利便性を高めるかという点については、民業圧迫の観点もあり、公共と民間事業者と協議の場が必要。くるくるバスの運行時間延長の意見もあるが、利用頻度の関係やタクシー事業者との関係など、バランスで成り立っているものと考えている。

○天野委員（レスクル美浜営業所課長）

バスの接続について、市民病院や鷺塚住宅などで路線として繋がってはいるが、ダイヤがうまく組まれていないため、広域といっても絵に描いた餅となってしまっている。利用者が利用できる接続が出来るのかどうかという事を考えていく必要がある。

○金沢会長（碧南市副市長）

議題(2)について、承認いただける方は挙手を願う。

（全員挙手）

○金沢会長（碧南副市長）

議題(2)は承認された。

3 その他

○潮田委員（愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長）

3月20日からタクシー運賃が改定となる。

初乗りが1.178kmで600円から1.124kmで630円へ、加算運賃が251m毎に90円から253m毎に100円、電車改装料金が120円から200円へと、おおまかに、こうした内容に運賃改訂となります。燃料費が高騰している、LPガスが1.5倍になっている為、また電子決済での手数料が増加していること、運転手不足のために労働条件を改善すること、事業者の赤字改善などが背景

となっている。

○岩崎委員(四日市大学学長)

今後おそらく買物と医療機関へ通う為の公共交通機関をどう確保していくかという議論になっていくと思う。例えば買物に行くときに、車を使わず公共交通を使うときにどのようなメリットがあれば公共交通に乗るのか。目的地との関係で利用者を増やしていく事考えていくことも大事。また他の市町からの接続を考える事は重要である。

改善基準がタクシーやバスの運転手は、労働時間を制限して安全を確保しているが、それをなお一層守りましょうという事になってきている。そうじゃないと、運転手が少なくなってきている事もあるし、あちこち走らせるとなると、連続勤務時間が長くなり、安全を保てなくなる。他の市町との接点をうまく考えれば考えるほど、バスの台数を増やすしかない。バスの台数を増やすという事はかなり財政負担となるし、慎重にしていけないといけない。接続の部分は病院やショッピングセンター等の待合所を作るという事だろうと考えている。待合所を作るのが、ショッピングセンターで言えば、地元への社会貢献になり企業として利益になるという事をアピールしながら、接続というものを考えていく。

○堺委員(中部運輸局愛知運輸支局主席運輸企画専門官)

バスのみで説明させていただくと、1日の労働、拘束時間について。休息時間を1日継続して11時間与えるよう務める事を基本とし、9時間を下回らない。最低9時間は取らなければいけないとなる。1日13時間の拘束時間を守ってもらいたい。上限15時間となるが、14時間超えるのは週3までが上限。規制がかかる背景として、運送事業の運転手の過労死や過労に伴う事故が発生しているので、令和6年4月より改正される。改正内容はタクシーもトラックも休息時間を長く取ってくださいという事になるので最終的に1日の拘束時間が短くなる。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

(花まつりについてお知らせ)

○事務局

閉会 午前11時30分終了